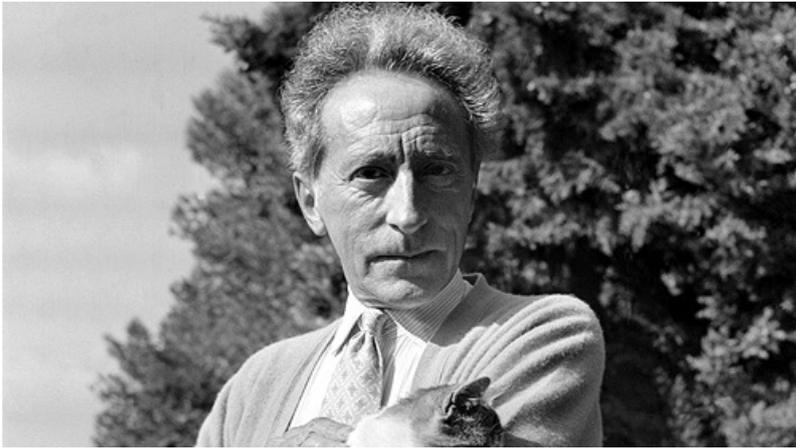


Mind Charging

第 397 回「ジャン・コクトーの名言」 発行：入試広報室 発行日：令和 6 年 10 月 28 日



**Fight any instinct
to be humorless,
for humorlessness is the
worst of all absurdities.**

ユーモアを失わないように戦うのだ。
ユーモアの欠如は愚の骨頂だ。

ジャン・モリス・ウジェーヌ・クレマン・コクトーは、フランスの芸術家。詩人、小説家、劇作家、評論家として著名であるだけでなく、画家、映画監督、脚本家としての活動も行っており、その多彩さから「芸術のデパート」とまで呼ばれた。自身は中でも詩人と呼ばれることを望んだという。

Column

ジャン・コクトー氏の作品は絵画くらいしか知りませんが、紹介文にもあるように、ありとあらゆる芸術の分野に挑戦してみようと決断し、活躍した理由が『またジャン・コクトーが面白い作品を生み出したぞ！となったら面白い！』といった“ノリ”とも言えるユーモアがあったのだろうと想像できる言葉です。これだけ多才な人物が最も大切にしていたことが“ユーモアを持ち続ける”ということに感激しました。ユーモアを調べると『人を傷つけない上品な“おかしみ”や“しゃれ”知的なウィットや医師的な風刺に対してゆとりや寛大さを伴うもの』とあります。ジャン・コクトー氏はそのユーモアと才能をフル活用して人を傷つけるどころか大いに楽しませた素晴らしい芸術家だったのだと感じます。もちろん楽しむこととふざけ過ぎて脱線してしまうことの線引きを忘れてはいけませんが、私も常に楽しむことや楽しいことや話をして“笑う”ということを大切にしています。なぜなら人は笑うことでリラックスできますし、おもしろい話やエピソードは印象に残るものです。そういう意味で、人を指導する立場になってからは特に会話の中で少しでも笑えるエピソードや表現を交えつつ、大切に覚えておいてほしいことを伝えるよう心がけています。

今回の言葉にある“戦う”というところにジャン・コクトー氏は芸術家としてだけではなく、人生そのものに対しても同じような思いを持っているのだと感じました。毎日を過ごしている中で私たちは本当に様々な出来事に遭遇します。そして、その度に様々な感情を抱くことになります。ポジティブなことであれば問題ありませんがネガティブなことだった時、乗り越えることが困難だったり長い時間を要することになったりします。乗り越えられないことや乗り越えるための時間が長いと、当然ながらその分のストレスは自分の心に重たくのしかかってきます。そういうものを背負いながら生きていくことも人生において重要なことではありますが、ゼロにはならなくても少しでも軽い方がいいですね。そんな時にもユーモア（ポジティブ）は大切なことです。自分が前に進んでいくために、今回の言葉が少しでも次の一步を軽く踏み出せるための助けになればと思っています。